

平成24年度

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

申請書

**1. 基本情報**

取組名称 「中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化」

連携校名 金沢大学、福井大学、岐阜大学、静岡大学、三重大学、  
富山県立大学、富山国際大学、金沢工業大学、静岡理工科大学、  
愛知産業大学、愛知東邦大学、椛山女学園大学、中部大学、  
同朋大学、豊橋創造大学、名古屋産業大学、名古屋商科大学、  
日本福祉大学、名城大学、金城大学短期大学部、  
静岡英和学院大学短期大学部、東海大学短期大学部、  
愛知大学短期大学部、豊橋創造大学短期大学部

下線は幹事校

## 2. 取組の概要及び実施計画について

### (1) 大学グループの構成と地域・産業界との連携の趣旨

本取組は、中部圏 24 大学（短期大学を含む：以下「中部地域大学グループ」と呼ぶ）が連携を組み、アクティブラーニングの活用を核として、地域・産業界と対話・連携しつつ、教育機関として自ら前に踏み出し、考え抜き、チームで働き、チャレンジする**教育改革力**の成長を目指すものである。

中部地域大学グループに属する大学は、学生の社会的・職業的自立を目指して、入学から卒業までの間を通じた全学的かつ体系的な指導を行う体制整備を進めるとともに、教育の質保証を目指して、各大学の教育理念に基づく**学士力**の検討を進めてきた。この過程で、各大学において、キャリアガイダンスが整備され、先駆的な人材育成教育実践事例が生まれてくるとともに、育成を目指す学生の資質とは何かに関する教職員間の共通理解が育ち、教育改革を本格的に進める舞台が整ってきた。

一方で、従来の教育改革の議論が、大学内における教職員間にとどまっているために、検討を進めてきた「育成すべき資質」が、真に地域・産業界のニーズに応えたものであるかに関して、大学側が十分な確信を得ている状況ではない。企業が学生に求める資質に関する一般的なアンケート結果は様々な機関から報告されてはいるが、現場で行われている教育と地域・産業界のニーズの対応関係を把握し、よりよい方向性を探るためには、双方の対話が不可欠となる。

また、地域・産業界も、大学が置かれている現状に対する認識を十分に持っているとは言い難い。もとより、大学は、学生が一人の市民として生涯にわたって意味ある生活を送るための知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力など、単に地域・産業界ニーズの範疇に収まりきらない幅広い力の育成を社会的使命として担っている。同時に、大学のユニバーサル化の流れの中で、各機関は入学する学生の質の変化という現実を受け止めつつ、学生たちを社会につなぐために力を尽くしている。地域・産業界も、大学の持つ広い社会的使命と、教育現場の実態を理解することが求められている。

中部地域大学グループは、上記の共通認識のもとに、相互に連携しつつ、地域・産業界と積極的に対話を進めることを通して、大学の教育理念を尊重しつつ、地域・産業界のニーズに合致する人材を送り出すための現実的な教育改革を目指す。対話のためには、大学側が自らの土俵に固執することは必ずしも適切ではない。自らのミッションと教育理念に立脚しながらも、地域・産業界の視点で自らを相対化し省察するために、産業界が大学に育成を求める資質として提示されている**社会人基礎力**を対話の土俵とする。すなわち、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」と、それぞれの構成要素を手掛かりとして、各大学の育成する資質を提示するとともに、それぞれの大学がその中で重視する要素は何か、それらを育成する上で最も困難を覚える現場の課題は何か、社会人基礎力という用語には収めきれない教学上不可欠な要素は何か、などの対話を進めることとする。この土俵における対話を通して、社会に担っている包括的な大学教育の使命、個別の大学の教育理念や、直面する現実的な問題に関する、地域・産業界側からの理解も促進すると思われる。

このような地域・産業界との対話・連携を通して、中部地域大学グループが目指すものは、**教育改革力の強化**である。大学自らが、教育改革に対してチャレンジする姿勢を十分に打ち出せないならば、評価を極端に恐れ、安全・安定志向にとどまる学生に対して、模範を示すことはできない。地域・産業界が学生に求める資質として提示している「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」

<b>教育改革力</b> (大学)	参考： <b>社会人基礎力</b> (学生)
教育改革のための	社会で働くための
1.前に踏み出す力	1.前に踏み出す力
2.考え抜く力	2.考え抜く力
3.チームで働く力	3.チームで働く力

は、大学自らが学生に模範を示しつつ、社会に示すことが求められている資質であると言えよう。中部地域大学グループは、教育改革に向けて「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を教育改革力と呼ぶこととし、アクティブラーニングを活用し、地域・産業界との連携強化を通して、教育改革力の成長を目指す。

中部地域大学グループは、中部圏における地域・産業団体の活力を、対話と連携を通して教育現場に注ぎこみたい。中部圏の産業界は、ものづくりに象徴されるように、絶えずイノベーションを生み出し、日本経済をリードしてきた。その成果は、強固な基盤に立つものであり、時代の変化に柔軟に対応しながら、世界に揺るぐことのない地位を保ち続けている。この中部産業界の強みは、形式的な評価ではなく、実体を伴う質を追求する姿勢である。成果ばかりではなく、失敗の経験からも目をそらすことなく、さらなる質向上のための財産であるとみなして可視化し、知識化し、共有する姿勢である。同様に、大学の教育改革力は、自らの欠点を隠して他大学よりも良い評価を得ようとする消極的な姿勢から生まれるものではない。中部地域大学グループは、大学が教育改革のチャレンジを行う過程で行う失敗をも財産であるとみなし、それを見つめて知識化し、大学間や地域・産業界とも共有する過程で培われるものであると信じ、中部圏の地域・産業界のもつ質を追求する姿勢を、教育現場に適用するために、積極的な対話や連携をすすめていく。

中部地域大学グループに所属する全大学は、①アクティブラーニングを活用した教育力の強化、②地域・産業界との連携力の強化、という二つのテーマを遂行し、共に成果を生み出す過程で、前に踏み出し、考え抜き、チームで働く教育改革力の強化を図りたい。

各大学が、地域に根差しつつ「チームで働く力」を発揮するためには、より小さな単位による相互作用が機能的である。チーム編成の理念としては、①地理的近接性、②テーマの近似性、の2つの要素が考えられる。地理的近接性や行政的・経済的まとまりを考慮すると、静岡県(4校)、東海三県(14校)、北陸三県(6校)の3つの単位が適切であると考えられるが、この場合には東海三県に過半数の大学が集中する。したがって、東海三県は、教育力強化を中心的課題とする大学8校と、連携力強化を中心的課題とする大学6校に編成することとする(下線はチームを代表する副幹事校)。

**A. 東海Aチーム：アクティブラーニングを活用した教育力強化と検証を行う。**

名古屋商科大学、三重大学、愛知産業大学、愛知東邦大学、椛山女学園大学、中部大学、豊橋創造大学、豊橋創造大学短期大学部

**B. 東海Bチーム：地域・産業界との連携力強化と検証を行う。**

名古屋産業大学、岐阜大学、同朋大学、日本福祉大学、名城大学、愛知大学短期大学部

**C. 北陸チーム：北陸地方を舞台として教育力・連携力の強化を図る。**

金城大学短期大学部、金沢大学、福井大学、富山県立大学、富山国際大学、金沢工業大学

**D. 静岡チーム：静岡県を舞台として教育力・連携力の強化を図る。**

静岡大学、静岡理工科大学、静岡英和学院大学短期大学部、東海大学短期大学部

これらのチームは、地域に根差した連携FDの企画単位であり、成果や失敗を共有する単位となるが、取組自体は、中部地域大学グループが一体となって実施するものであり、チーム間に壁があるわけではない。個々のチームで行われた情報は、全大学グループで共有され、個々の大学は、チームの単位に縛られることなく、自由に連携や交流を進める。教育改革力強化についての中部圏産学連携会議は、中部地域大学グループが一体となって行う。

## (2) 大学グループにおける取組テーマの達成目標・成果

本取組では、中部地域大学グループが、ネットワークを組み、アクティブラーニングを活用した教育力強化と、地域・産業界との連携力強化を通じた**教育改革力強化**を達成目標とする。本取組を通して成長を目指す大学の教育改革力の要素を取組テーマごとに整理すると、以下のようになる。

### 1) アクティブラーニングを活用した教育力強化

各大学の教育理念に基づいて学生を育てる資質と、地域・産業界が求める資質を実践的事例とともに対話を繰り返すことを通して、より効果的な大学教育方法を生み出すサイクルを形成するとともに、地域・産業界に大学の包括的な教育使命と、教育現場の実態に関する情報を提供する仕組みを構築する。

アクティブラーニングの要素である、①グループワーク、②ディベート・討議、③フィールドワーク、④プレゼンテーション、⑤評価・振り返り、を教育現場に活用し、その効果を地域・産業界との対話を通して検討することにより、効果的なアクティブラーニングの要素に関する理解を深められるようになる。

### 2) 地域・産業界との連携力強化

地域・産業界と連携したインターンシップや連携型授業の導入と改善を通して、質が保証された教育プログラムを産学連携で生み出す仕組みを構築する。

### 3) テーマに一貫した大学の教育改革力強化

#### 教育改革のために前に踏み出す力

- ・各大学が個別に行っていた教育改革を、他大学と連携を組んで行うことができるようになる。
- ・大学が独自に行っていた人材育成を、地域・産業界と連携した教育改革につなげて実施することができるようになる。

#### 教育改革のために考え抜く力

- ・大学間で良い実践や失敗を共有化し、分析し、知識化することを通して、創造性を生み出すことができる。

#### 教育改革のためにチームで働く力

- ・異なった教育理念や背景を持った他大学や、異なった視点から大学教育を見ている地域・産業界に耳を傾けると同時に、自らの立場を相手に理解できる方法で説明する姿勢を養うことができる。
- ・知識化された成功例や失敗例を、社会が活用可能な方法で発信することができる。

## (3) 支援期間終了後の取組

支援期間終了後は、本取組で形成した大学間ネットワークを母体として、中部圏の他大学をも含めた、より広範な中部圏教育改革ネットワークを形成する。その中で、都道府県単位のネットワーク、設立形態別大学ネットワーク、教育法開発や評価法開発など目的別大学ネットワークを生み出していく。財政措置については、連携各大学の応分の負担とする。中部圏産学連携会議は、恒常的な会議として発展的に制度化し、継続的に産学の対話と連携が実施できる体制を生み出す予定である。財政措置については、地域・産業界からの出資も考慮に入れて検討する。

(4) 大学グループにおける取組テーマの内容

大学グループとして掲げた2つの取組テーマの内容は、以下の通りである。

1) アクティブラーニングを活用した教育力強化に関する取組内容

大学が自らの理念に従って育成すべき資質と、地域・産業界が必要と考える資質に関して、社会人基礎力を共通の土俵として、大学と地域・産業界との対話を行う。その際に、大学は、①教育理念、②育成を目指す「前に踏み出す力」の資質、③育成を目指す「考え抜く力」の資質、④育成を目指す「チームで働く力」の資質、⑤社会人基礎力の中で強調する資質、⑥その他社会人基礎力では収まらない資質、⑦教育改善のために地域・産業界との意見交換を求める事項を統一的なフォーマットを用いて、参加する各大学の教育指針を整理する(表1)。この事前の調査は、大学と地域・産業界での対話を行う際の基礎的資料になるものである。

表1. 各大学の教育方針と育成すべき力に関するフォーマット

大学	教育理念	前に踏み出す力	考え抜く力	チームで働く力	強調する資質	その他の資質	意見交換事項
大学1							
大学2							
...							
大学24							

各大学の教育方針に従いつつ、産業界のニーズに対応した資質を育成するための教育手法として、アクティブラーニングの活用を促進する。アクティブラーニングは、授業者が一方向的に知識伝達をする従来型の講義形式ではなく、学生参加型授業、共同学習を取り入れた授業、課題解決型学習やPBL(Problem-Based Learning / Project-Based Learning)など、学生の能動的な学習をとりこんだ授業を総称するものである。中部地域大学グループは、このアクティブラーニングの具体的な形態として、①グループワーク、②ディベート・討議、③フィールドワーク、④プレゼンテーション、⑤評価・振り返り、の5つを当面想定することにするが、現実には、一つの授業の中でプレゼンテーションとそれへの評価などの複数の形態が同時に進められることや、上記5つに適合しないアクティブラーニング取組形態が出てくることなどもありうるので、これらを包摂し進化したフレームワークになるように配慮する。

連携FD等を通して、どのようなプログラムや学習目的において、いかなるアクティブラーニング形態が用いられ、どのような教育効果を生んでいるかについて、成功例・失敗例に関わらず、数多くの参加大学間で情報を収集・共有し、整理体系化する取組を進め、その成果を、中部圏産学連携会議における産業界との対話を通して検証する。

2) 地域・産業界との連携力強化に関する取組内容

産業界ニーズに対応した人材を育成するために、以下の取組を実施する。

まず、地域・産業界との連携によるインターンシップの高度化を図る。インターンシップ導入期には、地域・産業界からの協力を得てインターンシップを実施すること自体が重要な課題であり、一定の成果

を上げてきたが、インターンシップを通して学生を育成するための質的連携が十分ではなかった。本取組では、インターンシップの内容や教育効果の改善の領域に、大学と地域・産業界が関わる仕組みづくりが行われる。

また、地域・産業界との連携による授業の開講が進められる。従来、大学の授業に地域・産業界が関わる試みは少なかったが、本取組を通して、連携型授業の導入を促進し、地域・産業界の知識や生きた体験を教育現場に取り入れ、産業界のニーズに対応した人材作りを進める手立てとする。

さらに、地域・産業界との対話・連携を進める上での協議会等を設置し、地域・産業界が大学と一体となって、大学の教育目標に合致しつつ、産業界ニーズに対応した人材育成のための仕組みをつくる。

この地域・産業界との連携は、大学が置かれた地域の状況に応じて、単一県による連携、県をまたぐ連携、分野別の連携などが進められ、さらに大学グループとしての中部圏産学連携会議を通じた連携が行われる。

### 3)両テーマ共通の取組内容

2つのテーマを取り組むうえで、成功事例と失敗事例を共有し、知識化する。成功事例については、従来の成果報告の形式で行われる。一方、失敗に関しては、①事象、②経過、③推定原因、④対処、⑤総括の状況を把握したうえで、⑥知識化を試みる(図1)。各大学における失敗事例は批判されることなく、今後の大学の教育改革体制作りに活かすための材料とされる。知識化された成功事例や失敗事例は、各大学において、取組を遂行する上で社会が活用可能な方法で発信される。

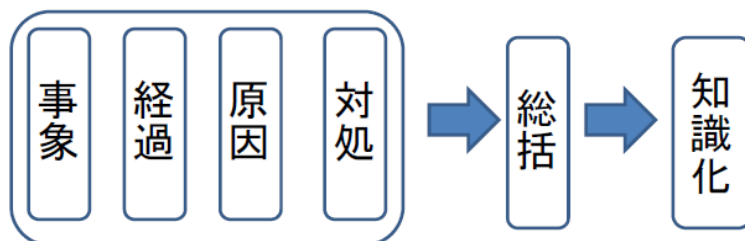


図1. 失敗事例の分析から知識化を導く手順

畑村洋太郎(2000)『失敗学のすすめ』をもとに作成

#### (5) 大学間の連携体制と連携取組の実施体制

本取組では、幹事校と4つの副幹事校で構成される**中部地域大学教育改革推進委員会**を組織し、大学グループとしての取組を推進する。

##### 1) 中部地域大学教育改革推進委員会の役割

- ・大学グループ全体としての取組の企画、運営、自己評価、広報を行う。
- ・中部圏産学連携会議の企画運営を行う。
- ・アドバイザーボードからの助言を受けて、取組の改善に反映する。
- ・チーム間の連携・調整を行う。

##### 2) チームの役割

- ・チームに属する大学間の連携を行う
- ・各大学の取組の成果と失敗を共有し、知識化を行う。

- ・チームとしての取組の企画、運営、評価を行う。
- ・連携FDを企画・運営する。
- ・チームと関係する地域・産業界との対話・連携を推進する。

### 3) 幹事校の役割

- ・中部地域大学教育改革推進委員長として、取組をとりまとめる。
- ・文部科学省と各チームとの連絡窓口として連絡調整に当たる。
- ・補助金申請の事務的な取りまとめや、補助金への各大学の資金移動、事業の実態把握のための照会対応を行う。

### 4) 副幹事校の役割

- ・中部地域大学教育改革推進委員として、大学グループ全体の取組を担う。
- ・チームと中部地域大学教育改革推進委員会との連絡・調整を行う。
- ・チームの代表として、チームの取組の企画、運営、評価を行う。

## (6) 大学グループの取組体制

中部地域大学グループは、4 チームで編成され、幹事校と各チームの代表である副幹事校による中部地域大学教育改革推進委員会によって運営される(図2)。すべてのチームが、本取組にかかわる2つのテーマの遂行を通して、教育改革力強化をめざすという共通目的をもった大学の集まりであるため、相互に連携をとって情報交換を行いつつ、大学グループの一部として事業を推進する。チーム自体は、連携FDの単位であり、それぞれの地域性や所属するチームに特徴的な課題やニーズに沿った研修会を企画・運営し、チームの大学ばかりではなく全大学グループに参加を呼び掛け、その成果も全大学グループに還元する。

中部地域大学教育改革推進委員会は、事業遂行にあたって助言をする機関として、アドバイザリーボードを組織する。アドバイザリーボードは、大学教育、就業力育成、組織論などに関する、本取組のテーマや事業の運営に関する専門家からなる外部有識者によって構成され、アドバイザリーボードミーティングを通して、また各種課題ごとに随時、適切な助言を受ける。

中部地域大学教育改革推進委員会は、大学グループと産業界等との間で、中部圏産学連携会議を組織する。中部圏産学連携会議は、企業、経済団体、行政機関、教育機関との間での対話を行う場である。中部圏産学連携会議は、毎年1回、開催することとする。

中部圏産学連携会議は、以下の機関によって構成される。

- ・企業(予定)：中部電力(株)、コマツ、デリカフーズ(株)、(株)JTB 中部、(株)百五銀行
- ・経済団体：経営者協会(東海北陸7県)、中部経済連合会、北陸経済連合会
- ・行政機関：経済産業省／中部経済産業局、厚生労働省／労働局
- ・教育機関：学校法人河合塾

中部圏産学連携会議では、以下の対話が行われる。

- ・地域・産業界が求める人材像と、大学が育成しようとする人材像に関する対話。
- ・アクティブラーニング活用実践に対する対話。
- ・大学と地域・産業界との連携の在り方に関する対話。
- ・大学における教育改革の成果と失敗に関する知識の共有と解決策に関する対話。

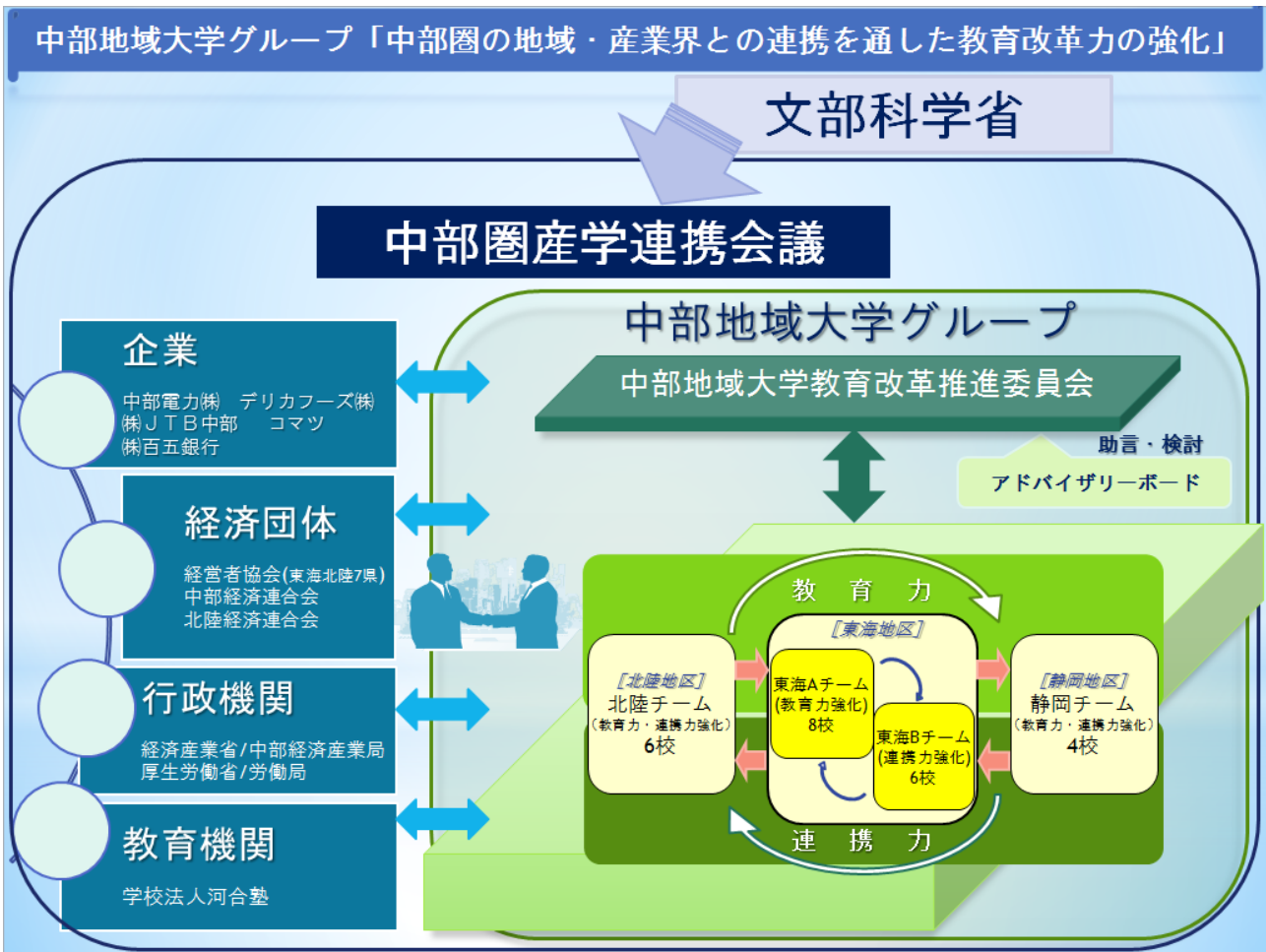


図2 中部地域大学グループ取組図

(7) 取組の実施計画

本取組は、平成24年度～26年度において、以下のように実施する計画である(図3)。

1)平成24年度

- ・中部地域大学教育改革推進委員会を組織する。
- ・アドバイザーボードを組織する。
- ・チームを組織する。
- ・中部圏産学連携会議を組織する。
- ・大学間の情報を共有するシステムを構築する。
- ・各大学が教育理念に従って育成すべき資質を、社会人基礎力の共通のフォーマット上にコンバートして検討し、大学グループ全体における状況を把握する。
- ・各大学のアクティブラーニングの浸透状況や評価法等を検討し、大学グループ全体における状況を把握する。
- ・各大学における地域・産業界との連携状況とその課題を検討し、大学グループ全体における状況を把握する。
- ・各大学における事業の取組の成功事例と失敗事例を蓄積する。
- ・連携FDをチーム単位で実施し、各大学の取組状況を把握する。



・第1回中部圏産学連携会議において、中部圏全体における大学の実態に関する検討状況を踏まえて、大学教育が育成を目指すべき資質に関する対話を行う。

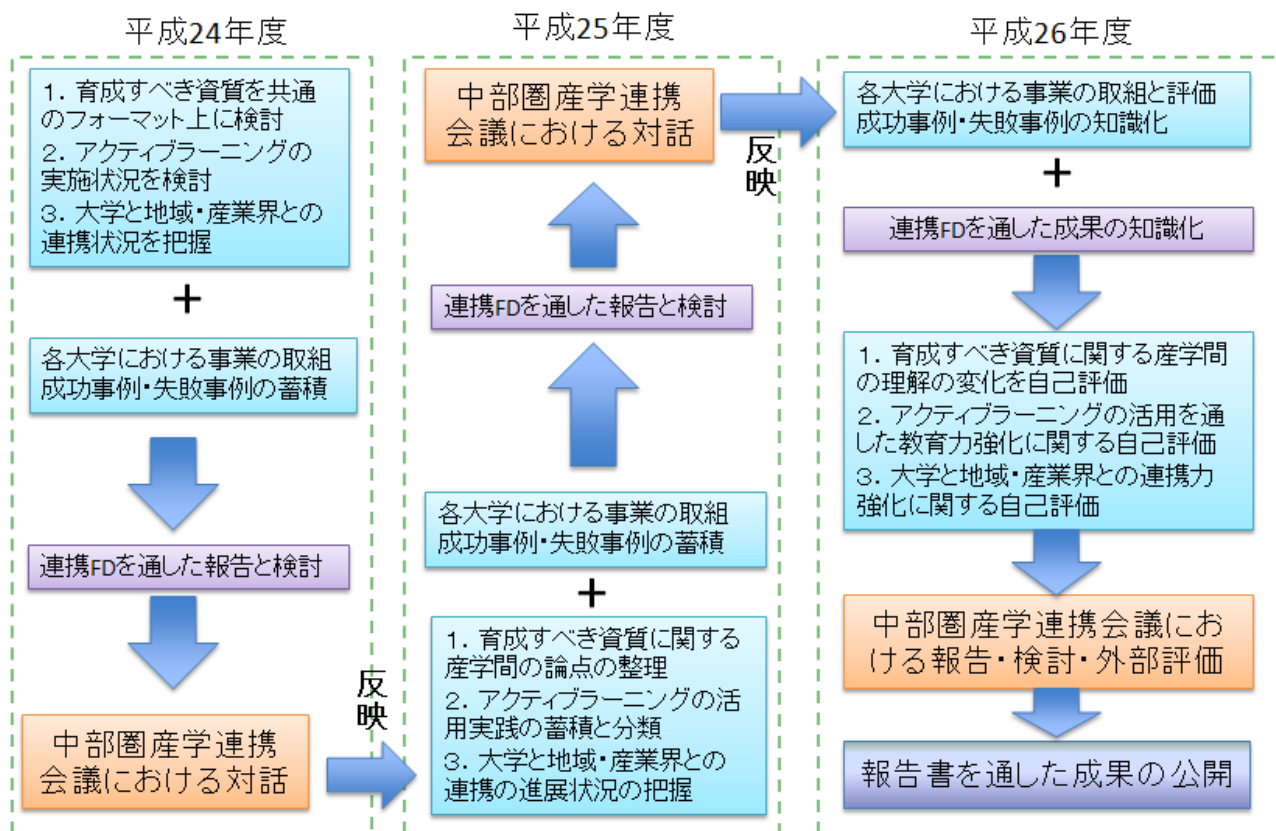


図3. 取組の年度別実施計画

## 2)平成 25 年度

- ・第1回中部圏産学連携会議の対話の成果を受けて、大学が育成すべき資質に関する産学間の論点を整理し、検討を加える。
- ・アクティブラーニングの活用実践を蓄積し、分類する。
- ・各大学と地域・産業界との連携の進展状況を把握する。
- ・各大学における成功事例と失敗事例を蓄積し、共有化する。
- ・連携FDを通して事業の報告と検討を行う。
- ・第2回中部圏産学連携会議において、大学が育成すべき資質に関する対話を深め、アクティブラーニングを活用した教育実践や、地域・産業界との連携の進展に関する対話を行う。

## 3)平成 26 年度

- ・第2回中部圏産学連携会議の成果を、各大学の取組実践に反映させる。
- ・各大学の取組の成功事例と失敗事例を知識化する。
- ・連携FDを通して、成果を知識化する。
- ・育成すべき資質に関する産学間の理解の深化に関する自己評価を行う。
- ・アクティブラーニングの活用を通した教育力強化に関する自己評価を行う。
- ・大学と地域・産業界との連携力強化に関する自己評価を行う。

- ・取組を通じた教育改革力強化に関する自己評価を行う。
- ・第3回中部圏産学連携会議において成果を報告し、外部からの評価を受ける。
- ・取組の成果を報告書として公開する。

#### (8) 取組の実施効果についての定量並びに定性的評価基準と評価体制等

各大学は、それぞれの取組の実施目標と成果に照らし合わせて、大学が主体となって内部評価や外部評価を受けることとなる。一方、大学グループとしての、取組実施効果については、以下の評価基準を用いる。評価のデータは、大学からの報告と連携FD、中部圏産学連携会議における議論による。

##### 1) アクティブラーニングを活用した教育力の強化指標

- ・社会人基礎力をベースにした大学と地域・産業界との対話を通じた双方の理解の深化。
- ・大学側に産業界ニーズに対応した育成すべき資質に関する認識が生まれ、教育に還元する実践。
- ・アクティブラーニングを実施する授業の数と質の変化。

##### 2) 地域・産業界との連携力の強化指標

- ・地域・産業界と連携したインターンシップの導入と改善の仕組みの構築。
- ・地域・産業界と連携した授業の導入と改善の仕組みの構築。
- ・地域・産業界との連携を効果的に進めるための方法に関するモデル化。

##### 3) テーマに一貫した大学の教育改革力の強化指標

###### 教育改革のために前に踏み出す力の成長指標

- ・他大学との連携を通して行う教育改革の実践。
- ・地域・産業界と連携した教育改革の実践。

###### 教育改革のために考え抜く力の成長指標

- ・大学間で成功事例や失敗事例の共有、分析、知識化。

###### 教育改革のためにチームで働く力の成長指標

- ・連携FDとそれ以外の大学間連携活動の量と質の変化。
- ・成功と失敗の共有を通じた大学内の組織的变化。
- ・成果の社会への公開。

評価の実施体制としては、各大学独自の成果評価を踏まえ、チームにおける連携FDの成果や自己評価、中部圏産学連携推進委員会による自己点検・評価を踏まえて、中部圏産学連携会議における外部評価を実施する。

また、本取組の成果は、平成25年度より連携FD、研究会、中部圏産学連携会議、シンポジウム等で公開され、平成26年度末には報告書を通して公表される。

# 【組織図】 中部地域大学グループ

